

甲斐市立敷島中学校 自己評価書（平成28年度）	
平成29年2月3日（金） 作成	
校長 海野 武仁	記述者 教頭 立川 武
学校教育目標 「一人一人の個性を伸ばし、自ら学ぶ生徒の育成を図る」 <ul style="list-style-type: none"> ・課題意識を持って「自ら学ぶ生徒」・・・・・・・・・・知 ・豊かな感性と思いやりのある「心豊かな生徒」・・・・・・・・情 ・何事にも全力をつくしてやり抜く「よく働く生徒」・・・・意 ・生命を尊重し、心身共に健康な「体を鍛える生徒」・・・・体 	
} 生きる力	
学校経営方針 生徒一人一人の「生きる力の育成」へ向け、以下のことに取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を高める教育課程の編成 ・個性を伸ばす教育の充実 ・よりよい生き方を求める道徳教育の実践 ・人権や福祉の尊重、国際交流を切り口とする国際感覚に満ちた生徒の育成 ・生涯学習社会にふさわしい地域に開かれた学校づくり ・上記の実現を図る教職員の資質の向上 	

1 全体評価

<p>〈はじめに〉</p> <p>* 昨年度は学校評価を前後期と2回実施したことにより、前期において成果と課題を明らかにし、後期に課題に対して重点的に取り組み、改善へつなげることができた。</p> <p>本年度は年に一度の学校評価であり、ある意味「総括評価」と言える。本年度の学校評価の資料には、昨年度後期の評価数値を掲載した。比較が難しい点があるが、参考として見ていただけたらと思う。</p> <p>（参考）</p> <p>「肯定的回答率」・・・質問に対し、「そう思う」「ややそう思う」や「よくわかる」「とてもよくわかる」など、肯定的な回答をしているもの（AとBをマークしているもの）の率を表す。</p> <p>〈自己評価より〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・46の質問項目によるアンケート形式で、全教職員（36名）から回答を得た。 ・すべての項目においてA評価又はB評価が最も多い回答割合であった。 ・A評価が最も回答割合が高かったのは23項目、B評価が最も回答割合が高かったのが27項目であった。また、C評価とD評価を合わせて10%（1割）以上の評価があった項目は、46項目中8項目あった。 ・全46項目中35項目で、肯定的回答率（A評価とB評価の合計）が9割以上となっている。また、肯定的回答率が9割に届かなかった項目のうち、7項目が9割に近い数値であった。 <p>〈生徒アンケートより〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・27の項目で、全校513人中493名からの回答である。 ・肯定的回答率が高かった（目安として80%以上）ものは、27項目中、16項目あった。 ・質問内容によって肯定的回答率が高くないものもあるので、生徒の実態としてきちんととらえ、分析をし、改善していく必要がある。 <p>〈保護者アンケートより〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・25の項目で、488名の保護者からの回答があった。
--

- ・肯定的回答率が高かった（目安として80%以上）ものは、25項目中12項目あった。
- ・甲斐市全体の生徒と、ほぼ同じ傾向の回答である。
- ・回答から、保護者の教育への関心の高さが窺える。一方、「自主学習の時間数」「地域の行事への参加」「読書の時間数」については、課題として分析をし、改善していく必要がある。

【来年度に向け、改善が必要と考えられる内容】

① 学校教育目標・学校経営について

- ・P D C Aサイクルに基づく実践を確実に行う必要がある。学校教育目標の実現に向け、校長の経営理念や経営方針に対する理解をさらに深め、計画に基づき、実態に合わせた実践を行う。

② 学校運営について

- ・職員会議が教育活動全般における共通認識、相互理解、協力体制を築く場となっている。
- ・全教職員が学校運営への参画意識をより強く持ち、各自の実践が組織の中で機能していくようにする。
- ・校内研究の活性化をより図る必要がある。全教職員で取り組むべき内容についてより具体的にし、組織的に研究していく必要がある。

③ 学習指導について

- ・「やまなしスタンダード」に挙げられた7つの項目を、日々の授業で全職員で着実に取り組んでいく。
- ・生徒が「わかる授業」の創造、生徒の「学びの意欲を喚起する授業」を創造していく。
- ・家庭学習の在り方について教科担当を中心に考え、家庭学習と授業の連携を考慮しながら、家庭学習に関する取組を充実させていく。

④ 生徒指導について

- ・「生徒指導部会」や「不登校対策委員会」などの会議をより機能させるよう、工夫する。
- ・日頃から情報の共有を積極的に行い、指導方針の共通認識を図りながら、組織的な取組を強化する。
- ・課題を抱えている生徒や家庭に対し、外部機関との連携を含め、粘り強い指導を継続する。

⑤ 地域との連携について

- ・学校ホームページ(HP)の充実等をさらに進め、学校からの情報発信を積極的に行う。

⑥ 学校の特色について

- ・鍛練、合唱、読書活動、リサイクル活動など、本校の特色として行っている教育活動については、課題を次年度に生かしながら実施する。またP D C Aサイクルを意識し、地域や本校の実態に即した活動となるようにしていく。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育目標が学校経営方針を踏まえたものになっており、教職員は学校経営方針に基づいて、教育活動を行っている。 ○各学年においても、教育目標や指導重点に基づいた教育活動が計画的に行われている。 ○全教職員が校長の経営方針のもと、課題意識や参画意識を持って教育活動を行っている。

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針を各教職員がより深く理解し、様々な手立てを用いながら教育活動を行っていく。 ・学校教育目標の具現化を目指し、P D C Aサイクルをより意識して教育活動を行っていく。 ・職場の福利厚生・健康管理を、より充実したものとしていく。
----	--

II 学校運営について	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に校舎内外を点検することがきちんとなされ、異状等があった場合は、すみやかに報告している。また修理や修繕すべき箇所への対応も迅速・適切に行っている。 ○個人情報の保護・情報セキュリティへの危機管理意識が高く、情報漏洩等への配慮もなされている。 ○教職員は日々、相互理解・信頼関係を深めながら教育活動にあたっている。 ○報告・連絡・相談・確認を日常的に行う職員が多い。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の教職員の危機管理意識を更に向上させるため、全国で起こる事件をタイムリーに取り上げて自校にあてはめてみたり、訓練や研修を通して検証したりしていくことが重要である。不測の事態の際に各教職員が自己判断しながら迅速かつ適切に事態に対応できるよう、日頃より意識やスキルを向上させていくことが重要である。 ・各教職員が、縦と横の連携をより意識し、連携していく。日常的に「報連相確（ほうれんそうかく）」を密に行い、より高い共通理解のもとで協働して教育活動を行う。 ・校内研については、各教職員がより主体的に取り組む必要がある。

III 学習指導について	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○「民主的で規律ある集団づくり」を、全校で日常的に意識して取り組んでいる。 ○学習内容の基礎基本の定着を図る授業づくりを行っている。 ○「学びの意欲」を喚起するような授業づくりを日々心がけている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「やまなしスタンダード」を取り入れた授業を、全職員同じ歩調で実践する。 ・評価規準と評価方法をより明確にした授業づくりを行う必要がある。 ・宿題や家庭学習を充実させていく必要がある。 ・生徒の学習意欲をより高められるよう、教材・教具を工夫したり、個への配慮をより行った授業実践を行っていく。

IV 生徒指導について	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒とのコミュニケーションを様々な方法（毎日の生活ノート等）を用いて行い、生徒理解に努め、生徒指導に生かしている。 ○「いじめ問題」については、担任を中心に学級の些細な出来事に対しても迅速に、細かに対応してきている。また組織的な対応で、未然防止と早期発見に努めている。認知した事案についても、継続的・組織的な対応で早期解決ができています。 ○外部機関と積極的に連携してきている。 ○個々の生徒に寄り添う指導を基本に、集団指導や個別指導が適切に行われている。 ○個々の事案に対し、学年職員を中心に粘り強く行っている。

	<p>○不登校については、家庭と綿密な連携をとることで、少しずつ改善しているケースが見られる。自学教室の機能を最大限に生かしながら、今後も継続して粘り強く対応をしていく。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間での生徒指導上の課題を共有した対応について改善が必要である。 ・生徒指導部会や不登校対策委員会を、より有効に機能させる必要がある。左記の部会や委員会で話題となった内容を、組織を活用して迅速に他の職員に伝え、対処していく必要がある。 ・対処療法的な指導だけでなく、未然防止や生き方指導、進路指導など、積極的な生徒指導を今後行っていく必要がある。 ・今後もいじめの未然防止と早期発見・早期対応ができるよう、日常的にアンテナを高くし、生徒の状況把握に努める。また、対策委員会等の機能を充実させていく。 ・「報告・連絡・相談・確認」を確実にし、生徒指導上の課題を全職員が共有し、迅速かつ適切に対応していく。 ・必要に応じてスクールカウンセラーや関係機関と積極的に連携し、情報交換を行いながら指導に取り組んでいく。 ・日常の言葉かけを大切にしたい。「認める」「励ます」指導を中心に、目と心を離さない指導を継続していく。

V 地域との連携について	
現在の状況	<p>○学校の教育活動を、学校便り、学年通信、学級便り、部活動通信などのお便りやHPを通して、保護者や地域に積極的に広報している。</p> <p>○保護者がPTA活動に協力的であると教職員は感じている。</p> <p>○有価物回収の取組では、多くの保護者にご理解をいただきながら実施できている。</p> <p>○年輪祭や合唱祭などを保護者だけでなく地域住民にも公開し、本校の教育活動を知ってもらう機会となっている。また本年度より、生徒が敷島地区の小中学校で「あいさつ運動」に取り組み、地域の方々に理解や協力を得ることができた。</p> <p>○本校のPTA活動の一つの特色である「一人一活動」への協力では、のべ700人以上の協力が得られ、それぞれの活動がより多くの見守りの中、実施することができた。保護者も行事へ積極的に参加し、学校教育に対する保護者の関心や期待度の高さを感じることができる。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動に教職員がより積極的に関わることで、保護者や地域との連携をさらに深める。 ・HPの更新回数をより増やし、地域住民や一般の方に学校の様子を発信していく。 ・個々のPTA活動の課題を明確にし、その課題を次年度に生かしていく。また保護者の声や要望を聞く機会と場をさらに充実させ、それに応えられるような学校運営を行っていく。学校開放日について回数など再度検討する。

VI 学校の特徴に関して	
現在の状況	<p>○鍛錬や合唱活動、リサイクル活動に生徒が主体的に取り組むよう指導し、敷島中学校の伝統として継続した取組が行われている。</p> <p>○授業参観（PTA教育講演会）、合唱祭などへの参加協力を積極的に行い、学校の教育に対する理解と協力につながっている。</p>

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の時間が全体的に少ないことに対しては、朝読書の時間を効果的に活用することや敷島中図書館の蔵書の充実を図るなどの取組を継続していくことが重要である。 ・国語科などの教科等や、図書委員会の活動など生徒の自治的な活動と連携させて取り組んでいくことも考えていく必要がある。
-----	--

3 まとめ

〈成果〉

- ・校長のリーダーシップのもと、学校教育目標の具現化に向け、全教職員により組織的に教育活動を行ってきている。学習指導については、基礎基本の定着を図る授業を、「個への配慮」「学びの意欲の喚起」を意識しながら実践してきている。今後も継続した取組をしていかなければならない。

〈課題〉

- ・今年度の学校評価の結果を、全校の教職員できちんと共有すること。そして、教職員一人一人が課題意識を強くもち、現状に満足することなく、改善の取組を行っていく。
- ・諸活動において、PDCAサイクルを更に意識して取り組むこと。それぞれの活動の成果を踏まえ、課題は次年度やその他の活動に対しても生かすようにすること。そしてそれぞれの活動が効果的にリンクし、生徒の人間的な成長につながるような教育活動を推進していくことが重要である。
- ・保護者や地域と一層連携を深めながら、「開かれた学校づくり」「信頼される学校づくり」のために、今後も教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいきたい。